

まんさく

第275号

発行
特別養護老人ホーム光寿苑
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
koujhu@fancy.ocn.ne.jp
題字 元理事長 太田 祖 電



この冬の暮しのテーマは『コロナ対策』と『大雪対策』の二枚看板でしたね



プロ顔負け!?職員自らの除雪!

タイトルの通り、長く感じる
今冬でございましたが、もう春
はそこまで来ておりますね。
コロナワクチン接種の回目を
2月の中旬にお屏寄り職員
総勢110名が無事打てました。
大雪には目にあい続けた冬で
したが、プロレベルの職員の除
雪で何とか切り抜けました。
春よ、早く来てくれるおろ。

コロナワクチン接種
記録的大雪の西和賀
《令和4年2月の様子》

令和3年度下半期も「知る」を大切に進めてきました！

【生活】「⑦介護部門…こまち通り」 ☆金子利加子☆

法人キーワード		2021年度共通のキーワードは『知る』	
2021年度上半期のイメージ	テーマ	お年寄りと目線を合わせて思いを「知る」	
	理想像	目標 ①	目標 ②
		お年寄り一人ひとりに向き合っていく	今日が最期の日になっても後悔しない介護 お年寄りに安心した暮しを送って頂く
具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	①自分がされて嫌な介護はしない。 ②仕事に入る前は、気持ちを整える。 ③身体の苦痛を軽減する工夫をしていく。 ⇒職員が体験をし、その状態を確認する。 ④お年寄りの動作・時間軸に合わせる。 ⇒「待つ」という心のゆとりを持つ。 ⑤報告連絡相談をしっかりとっていく。		



2021年度上半期の検証	<p>目標①について ＊お年寄りの体調変化に対応する事で精いっぱいだったが、その中でも報告・連絡・相談しながら1人ひとりに向き合っていたと思う。</p> <p>目標②について ＊写真については3ヶ月に1回のペースでプリントアウトしてユニット展示をする事ができ、お年寄りに見て喜んでもらえた。亡くなられた3名の入居者家族にもDVDにしてお渡しする事ができ、喜んで頂けた。 ＊コロナ禍ではあったが、オンライン面会や窓越し面会、電話などでお年寄りのご家族とが会う時間を創れたと思う。</p> <p>※ご高齢の方が多く、体調変化や低下が予想される。これまで以上にお年寄り一人ひとりと向き合っていきたい。</p>
--------------	--



テーマ		お年寄りと目線を合わせて思いを「知る」	
2021年度下半期のイメージ	理想像	目標 ①	目標 ②
		お年寄り一人ひとりに向き合っていく	今日が最期の日になっても後悔しない介護 お年寄りに安心した暮しを送って頂く
	具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	①言葉をお互いに時間を大切にする。 ②日々の生活や様子を写真に残していく。 ⇒その時の状況が分かるように、撮影の仕方を工夫する。 ⇒3ヶ月に1回ペースでプリントアウト ⇒DVDを作成していく。 ③オンライン面会等を勧め、家族と会う時間を創っていく。 ④気になるお年寄りについては、ユニット内でケアカンファレンスを開き、見直し・共有していく。	

上半期からの変更箇所は、字体が「丸ゴシック体」になっています。

【在宅】「①居宅支援・企画部門」⇒『総括課』☆細川 浩☆

法人キーワード		2021年度共通のキーワードは『知る』	
2021年度上半期のイメージ	テーマ	時代を振り返り現状を理解する	
	理想像	目標 ①	目標 ②
		非常事態に対応できる。	入居者・家族・施設(職員)の相互理解
具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	①過去の災害を振り返り現状課題の確認をする。 ⇒防災委員会の開催 ②備蓄品の点検整理 ⇒防災委員会及び各部署の点検 ③防災訓練の定期実施・参加 ⇒定期実施年2回 ⇒岩手県総合防災訓練in湯本への参加	①入居者の思いを察する。 ②家族の声に耳を傾けながら、お年寄りに接する。 ③家族会活動の継続	



2021年度上半期の検証	テーマと目標に対して * 防災委員会のもと、感染対策を含め、備蓄品の再点検開始となる。 * 家族会員や地域の協力を頂きながら、岩手県総合防災訓練に参加(9月4日)。 ⇒関係機関や地域との連携の重要性を体験できた。 * 総合訓練形式から、訓練の分散化(部分訓練…例として、避難訓練と通報・消火訓練を別日に設定)をした事で、訓練参加者の増員に繋がられた。
--------------	---



2021年度下半期のイメージ	テーマ	現状を理解する	
	理想像 下半期	目標 ①	目標 ②
		非常事態に対応できる。	入居者・家族・施設(職員)の相互理解
具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	①備蓄品の点検整理 ⇒既存の備蓄品確認等整理のもと、今後必要とされる物品の検討と準備に取り掛かる。 ③防災訓練(夜間訓練含む)実施・参加 ⇒訓練の分散化(部分訓練)に参加者の増員をはかる。	①入居者の思いを察する。 ②家族の声に耳を傾けながら、お年寄りに接する。 ③家族会活動の継続	

家族を護り育てた偉大なる母の心は永遠に



高橋トシさん【83歳】

お酒落で、とてもグルメだったトシさん。最後の方は食べる事もできなくなってしまう残念でしたが、好物や調子の良い日など喜んで食べてくれた時はとても嬉しかったです。優しい笑顔がとても可愛いらしかったトシさん。短い間でしたが、ありがとうございました。

《高橋加奈恵》

『今生より
往く』

光寿会へのご支援

寄附

★ 宮森忠利 様 [石川県]

寄贈

★ 高橋トシ子 様 [間木野]

★ 匿名 様 [西和賀町]

☆ 佐々木里子 様 [北上市]

おかげさまでした

★職員募集中★



どの人もそれぞれいいねえ♪

理事長！調理職員はこの人で、看護師は誰に致しましょう？

光寿苑の新しいお仲間
をご紹介します♪

佐々木サトさん

* 西和賀町

* 昭和のお生まれ



『共生の場』
へようこそ♪

想... 災害を捉える ~大阪から発信をいたします⑪~

『11年の月日を想う。語るということ』... 松岡由美

3.11以降に防災士資格取得。防災精神とあり方を発信し続けて下さっております。今月は東日本大震災の月。『3.11』へ、心を手向けて頂きながらの投稿でございます。

11年の月日を想う。語るということ

2011年3月11日。
もう11年。まだ11年。月日や時間
はみな平等に流れると分かっていても、お一人お一人の想いや過去によって、重ねた時間に対する心情は違ふと思ひます。

この日に想いを馳せるとき、節目とやら「区切り」という言葉でまとめられないなんてできない、語り尽くせない想いは沢山あります。か、今出来ることを地道に続けていきたいと、小さな歩みですが、大阪で防災取り組みを重ねてきました。自分の身の程も立場もわかりませんが、未熟ながら防災士としての取り組みや、何より被災地と言われる場所に出会った皆さんとのつながり、現地で五感を通して感じた全てが、東日本大震災が、もはや他人事ではなく、わたしの出来事...^{いじごじ}自分事として受け止めています。

以前、東日本大震災支援ネットワーク会議に参加させて頂く機会がありました。前号でもご紹介し

た一般社団法人和代表理事・大塚さん、兵庫県弁護士会災害復興支援委員会・津久井さん、他の皆さんから相談支援の真髓のような学びをたくさん頂きました。

▼我々の役割は話を聴くこと。決して聞き出すことではない。

▼信頼のないところには人は相談しない。相談がないから問題がない訳ではない。何から語っていいか分からない人がいる。言語化できない悩みがあることを決して忘れてはならない。

▼困難な状況であればあるほど、難しいケースであればあるほど、そこに人は生きる意味を取り戻していく。生きていく力をつけていられることの確信がある。語りの力。語って、語って、語ってもらう。

▼被災地で福祉関係の支援員さんの中に多く出会った。想定外の被害の中で、支援にあたった人たちは「自分は無力だ」と心折れていた。しかし、無力なんかじゃない。微力なんだ。微力でも積み

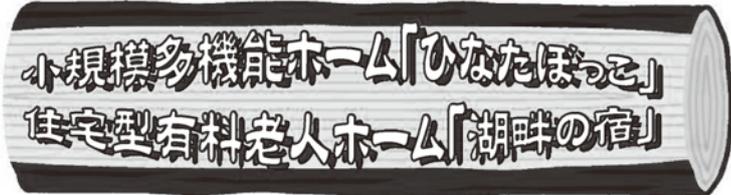
重ねれば、いつかきっと大きな力になる。

何度言葉にしても目頭が熱くなります。日々、相談支援の仕事をする自分にとっても胸に突き刺さる言葉です。防災の取り組みの中でも、精神障がいのある方の支援についても、精神障がいのある方の支援についても、語りながら力を強く感じていきます。災害直後は、命と健康を守ることに最優先です。私は傷ひとつ治せません。しかし、その後、生活を共に生きる、私たち福祉の専門職の役割が活躍する場面が「語り」と「対話」であると信じています。

誰もが、自分の望む暮らしを願うのは当然。それは、支援する私たちも然りです。地域で災害が起きると、私も「被災」します。しかし、私は一刻も早く「支援者」に戻らなければなりません。そのために「いま」できることを考え、そして行動し続けていきたいと思ひます。
(次号へ続く...)

社会福祉士 松岡由美
防災士

今月の登録者の方々
16名様です♪



間近に春を感じながら♪…「ひなたぼっこの日常」



2022/02/23 10:18

冬はコタツでお年寄りから職員が指導を受ける時節！？

配食サービスの料金が変わります！〔令和4年度〕

利用者負担額改定内容

現在の料金	町負担額	利用者負担額	1食単価
町委託事業	445円	460円	905円
補助事業対象外	0円	515円	515円



改定後負担額

令和 4年4月1日から

改定後の料金	町負担額	利用者負担額	1食単価
町委託事業	455円	475円	930円
補助事業対象外	0円	550円	550円

基準額を超える収入のある方

令和 4年8月1日から

改定後の料金	町負担額	利用者負担額	1食単価
町委託事業	405円	525円	930円
補助事業対象外	0円	575円	575円

利用頂く方の負担が増えますが、町からの決定事項でございますので、何卒ご理解のほどお願い致します。



～ 上半期からの変更点は『丸ゴシック体』で記載しています。～

【在宅】「②地域密着型部門(ひなたぼっこ・湖畔の宿)」 ☆刈田光太☆

法人キーワード	2021年度共通のキーワードは『知る』					
テーマ	日々変わっていくお年寄りの状態の変化を知る。					
2021年度上半期のイメージ	理想像	<table border="1"> <tr> <th>目標 ①</th> <th>目標 ②</th> </tr> <tr> <td>①言葉だけではなく、行動や表情からお年寄りの感情や変化を読みとる。</td> <td>①地域とのつながりを保てるよう情報を得ていく。</td> </tr> </table>	目標 ①	目標 ②	①言葉だけではなく、行動や表情からお年寄りの感情や変化を読みとる。	①地域とのつながりを保てるよう情報を得ていく。
	目標 ①	目標 ②				
①言葉だけではなく、行動や表情からお年寄りの感情や変化を読みとる。	①地域とのつながりを保てるよう情報を得ていく。					
具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	<ul style="list-style-type: none"> ①お年寄りとの日々の関りの中で気づいた点を職員間で共有し、対応等検討していく。 ②お年寄りの『～したい』の希望を話していただけるような雰囲気作り。 ③お年寄りから助言を頂きながらの畑作り。 ④家族からの情報や職員の気づきを誰が見ても分かる記録の取り方。 	<ul style="list-style-type: none"> ①お茶会⇒5月9日より再開。上野々地区サロン⇒4月13日より再開。※お茶会、サロン共に昼食の提供はせず午前からのみの開催。 ②サロン担当職員は定期交代制(1年)とし、ひなたぼっこことひなたぼっこ職員の顔を覚えていただく。そして、地域においても気軽に声をかけていただけるような関係作りに努める。 				

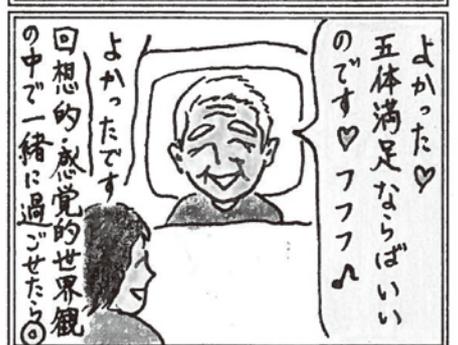


2021年度上半期の検証	<p>テーマと目標に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> *お年寄りとの会話がよくできており、その会話の中で要望等も聞いている。 *お年寄りから、中庭の畑は作業しなくても、ひなたぼっこや湖畔の宿から眺めているだけで良いと言って頂けた。 *近所の方からよく声をかけて頂き、話す機会も多くなった。職員も認識されてきたと思う。
--------------	---



テーマ	日々変わっていくお年寄りの状態の変化を知る。					
2021年度下半期のイメージ	理想像	<table border="1"> <tr> <th>目標 ①</th> <th>目標 ②</th> </tr> <tr> <td>上半期の目標を踏まえ、感情や変化を読み取ったうえで、お年寄りとのように関わっていけばよいか考え、実践していく。</td> <td>サロン・お茶会の内容の充実。</td> </tr> </table>	目標 ①	目標 ②	上半期の目標を踏まえ、感情や変化を読み取ったうえで、お年寄りとのように関わっていけばよいか考え、実践していく。	サロン・お茶会の内容の充実。
	目標 ①	目標 ②				
上半期の目標を踏まえ、感情や変化を読み取ったうえで、お年寄りとのように関わっていけばよいか考え、実践していく。	サロン・お茶会の内容の充実。					
具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間でお年寄りの変化を共有していく。 ・お年寄りの希望を実現できるよう努める。(例：自宅の様子を見に行きたい等。どのように対応するか検討する。) ・家族からの情報や職員の気づきを誰が見ても分かる記録の取り方。(継続) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎感染症対策をとったうえで ・町内巡りのバス旅行(お茶会) ・季節を感じていただける作品作り(お茶会) ・コロナ禍で隣近所との交流が減っている為、お茶会やサロン通して交流を深めていただく。(お茶会・サロン) ・身体機能低下を防ぐ為、西和賀ご当地体操やゴルフを取り入れ体を動かしていく。(サロン) 				

275号 光寿会の日々



仏陀遺誠

お釈迦様が後人に遺された訓戒

友よ

人は、自分のほか頼るべき

はない

何故かというに

人は

独生独死独去独来

ことに貪欲と愛執によってなる世間の中で

人は自己のほか

頼れるものがあるのだろうか。

だが友よ

頼るべきその自己もまた

貪欲と愛執に繋かれたものであれば

自己もまた頼るべき者といえるだろうか

第4回 丸田善明

自然法爾 (じねんほうに)

友よ、

それゆえに

ここに一つの法の灯火がある。かつて多くの仏陀たちが

やはり同じく悩みを抱いて

やはり同じく願いを抱いて通った道だ

その道に灯された法の灯火こそ

南無阿弥陀佛

友よ

その法の灯火こそ

真に頼れるものである。

(仏陀遺誠)

イラスト：1000

107才ばっちゃんの世界観には随分と笑顔にさせられた光寿会の職員。ばっちゃんのことを思い出して語るだけでも、その場が笑顔に包まれるほど。一世紀を超えるご生涯で培われた感受性と表現力の豊かさはステキではない。

おわりに

あの日から11年。今年もコロナ禍の影響大きく、一心に想起する時間を大分奪われた感覚だが、その中でも当日は岩手県沿岸部に出向き、そつと衣を着てお参りへ。11年前、被災された方々の、神も仏もあつたもんじやねえの、の声に、全く何も返せなかつた日々を思い出す。多くの避難所に行き、ジャージ姿で頭にタオルを巻いてボランティアに奮闘していた。でもどこかで、リいつか衣を着た自分が必要とされる気がしていた。被災地の中で声に耳を澄まし、耳が被災された方々から、必要とされている事を知った。ご遺体の安置所を巡った日々を回想の